

# 木次中学校整備基本計画の概要

## 1. 整備の背景

雲南市教育委員会は、「雲南市学校施設整備保全計画(令和3年3月策定)」に基づき、学校施設の適切な改修と維持管理を進めています。

木次中学校の校舎は、建設から約50年が経過し、老朽化が進んでいることから、生徒の安全・安心な学習環境を確保するため、建替えを行う必要があると判断し、屋内運動場や武道場、部室棟については、必要な改修を行いながら引き続き活用することとしました。

こうした状況を踏まえ、令和5年度から地域住民の代表者や有識者で構成する「木次中学校整備検討委員会」を設置し、本格的に整備の検討を行ってきました。

検討にあたっては、パブリックコメントや地元説明会を実施するとともに、生徒や地域住民を対象としたワークショップやアンケート調査を行い、学校施設に求められる課題やニーズを整理しています。

これらの検討結果を踏まえ、現在の場所で建替えを行う方針(原位置建替え)とし、施設規模や必要な教室等、配置計画について検討を進めてきました。

本計画は、これまでの検討内容や決定事項を取りまとめ、今後の整備事業を計画的かつ効率的に進めるために策定しました。

### 既存施設の概要

建物名	構造	延べ面積	建築年度	整備方法
校舎(普通教室棟等)	鉄筋コンクリート造 3階建て	4,460 m <sup>2</sup>	S49(築51年)	建替え
屋内運動場	鉄骨造 2階建て	1,625 m <sup>2</sup>	S50(築50年)	既存改修
武道場	鉄骨造 1階建て	418 m <sup>2</sup>	H15(築22年)	既存改修
部室棟	鉄骨造 2階建て	242 m <sup>2</sup>	H6(築31年)	既存改修

## 2. 生徒数の将来予測

### 生徒数及び学級数の推移(単位:人、学級)

年度	1年	2年	3年	生徒数	学級数 (通常)	学級数 (特別支援)	備考
R5	66	72	73	211	6	4	
R6	95	66	72	233	7	4	
R7	58	94	64	216	7	3	
R8	78	58	94	230	7	3	
R9	53	80	58	191	7	3	
R10	85	53	80	218	8	3	
R11	60	85	53	198	7	3	
R12	60	60	85	205	7	3	
R13	63	60	60	183	6	4	※R13～:生徒数200人未満、通常学級1学年2学級
R14	49	63	60	172	6	4	
R15	49	49	63	161	6	4	
R16	48	49	49	146	6	4	
R17	47	48	49	144	6	4	

※生徒数は、令和8年度までは実績値、令和9年度以降は想定値に計画策定時数値から更新。

※R8年度現在中学校の学級編成は、単式学級で1年生35人、2・3年生38人。

### 3. 基本理念

雲南市教育基本目標「ふるさとを愛し 心豊かでたくましく 未来を切り拓く 雲南市の人づくり」や木次中学校の学校経営方針(R7年度)のキャッチフレーズ「志高く挑戦！ ～ひとみ輝く人づくり～」にあるように、雲南市の教育では“人づくり”を大切にしている。

中学校における“人”とは“生徒”、“教職員”、“地域住民(保護者を含む)”である。

これらの“人づくり”を実現するための、雲南市の学校整備のモデルとなる木次中学校を目指す。

#### 【理念図】



### 4. 施設整備方針

基本理念に基づき、下記の項目を木次中学校整備の施設整備方針として設定する。

★: アンケート結果による重要項目

- ① 学び: 新しい時代の学びを実現する学校
  - 1) 主体的・対話的で深い学びを実現する多様な学習空間 ★
  - 2) 生徒の好奇心を誘発する展示の充実
  - 3) 学びを支える保管スペースの充実
- ② 生活: 健やかな心と体を育む学校
  - 1) 同学年・異学年交流の場の創出
  - 2) 光と風を感じる健康的な生活空間 ★
  - 3) 衛生的な水回り空間の充実 ★
  - 4) 木質化による温もりと安らぎを感じる空間 ★
  - 5) インクルーシブ教育の実現
- ③ 安全: 安全・安心な学校
  - 1) 安全でスムーズな動線計画
  - 2) 大人が見守りやすい、見通しの良い計画 ★
  - 3) バリアフリー・ユニバーサルデザイン
  - 4) 自然災害へ配慮した計画
- ④ 地域: 地域と共に育つ学校
  - 1) 地域利用を念頭にした学校計画
  - 2) 地域の伝統を継承する学校
  - 3) 地域の将来を見据えた計画
- ⑤ 環境: 環境にやさしい学校
  - 1) 環境負荷低減縮減を図ったエコスクール
  - 2) 優れた眺望や自然に配慮した学校づくり ★
  - 3) 利用環境の改善による快適性の向上 ★

## 5. 配置計画の決定

### 【施設規模】

- 計画生徒数 令和13年度予測生徒数183人

- 計画学級数

学年	1年	2年	3年	特別支援学級
令和13年度予測生徒数(人)	63	60	60	(10)
学級数(学級)	2	2	2	(4)

※学級編成は35人以下で編成 ※令和13年度以降当分の間、学級数は変化無しとの予測

- 計画面積 校舎(学級数に応じる校舎必要面積)

普通教室	6学級(N)	$3,181 + 324 \times (N-6)$	= 3,181 (m <sup>2</sup> )
特別支援学級	4学級	$\times 168$	= 672 (m <sup>2</sup> )
多目的室及び少人数授業用教室加算(加算率1.105)			= 404 (m <sup>2</sup> )
<b>計画面積</b>			<b>4,257 (m<sup>2</sup>)</b>

※「公立学校施設整備費国庫負担金等に関する関係法令等の運用細目」の補助対象面積に基づいて算出。

- 配置図



### 【決定理由】

① 安全で安心な学校づくりができる

工事エリアと学校生活エリアを分けることができ、生徒の動きと工事車両の動きが交差しにくく、安全性の高い学校運営が可能となる。また、見守りもしやすく、事故リスクを抑えられる。

② 良好な教育環境と負担軽減を両立できる

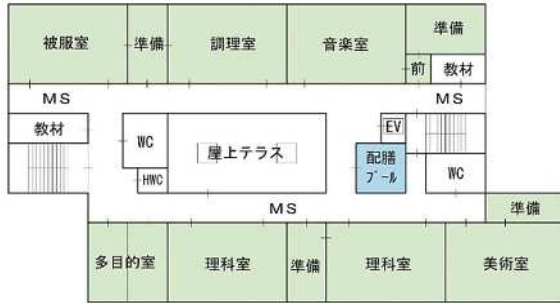
日当たりや風通しの良い配置が可能で、明るく開放的な学習環境を確保できる。また、仮設校舎が不要で、現在の校舎を使いながら整備できるため、学校生活への影響が少なく、生徒や教職員の負担が軽減できる。

③ 将来性と事業の実現性が高い。

配置の自由度が高く、生徒数の変化や施設の見直しにも柔軟に対応できる。また、段階的な整備が可能で、財政負担の平準化が図りやすく、現実的で実行性の高い計画である。

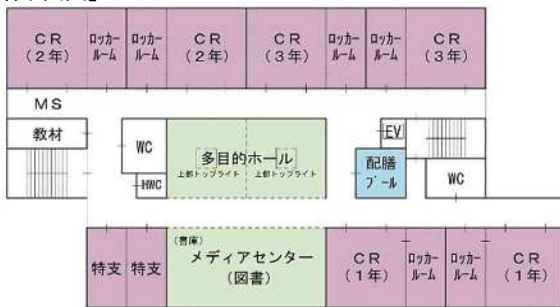
6. 配置図 ※この配置図は、一つの例です。

【3階平面図】

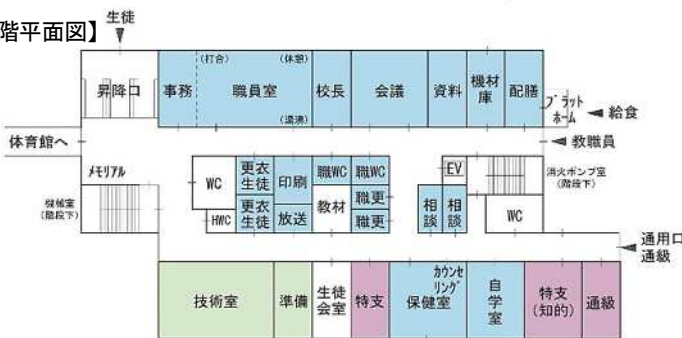


- 凡例
- 普通教室・特別支援学級部門
  - 特別教室部門
  - 管理諸室部門

【2階平面図】



【1階平面図】



- |   |
|---|
| <b>1. 普通教室・特別支援学級部門</b>                                 |
| 普通教室／特別支援教室／知的指導教室／通級指導教室 等                             |
| <b>2. 特別教室部門</b>  |
| 理科室／美術室／調理室／被服室／技術室／音楽室／図書館(メディアセンター)／多目的ホール／集会室／多目的室 等 |
| <b>3. 管理諸室部門</b>  |
| 校長室／職員室・事務室／会議室／保健室／相談室／放送室／配膳室／印刷室 等                   |

7. 今後のスケジュール

■ R8 年度	・地質調査 ・新校舎等基本設計・実施設計着手
■ R9 年度	・新校舎等基本設計・実施設計完了 ・造成設計(開発行為許可含む)
■ R10 年度	・造成工事着手
■ R11 年度	・造成工事完了 ・新校舎新築工事着手 ・屋内運動場等改修工事着手
■ R12 年度	・新校舎新築工事完了 ・有害物質調査 ・既存校舎解体設計 ・屋内運動場等改修工事完了
■ R13 年度	・引っ越し ・ <b>新校舎での学校運営開始</b> ・既存校舎解体工事 ・外構工事着手
■ R14 年度	・外構工事完了 ・全体事業完了